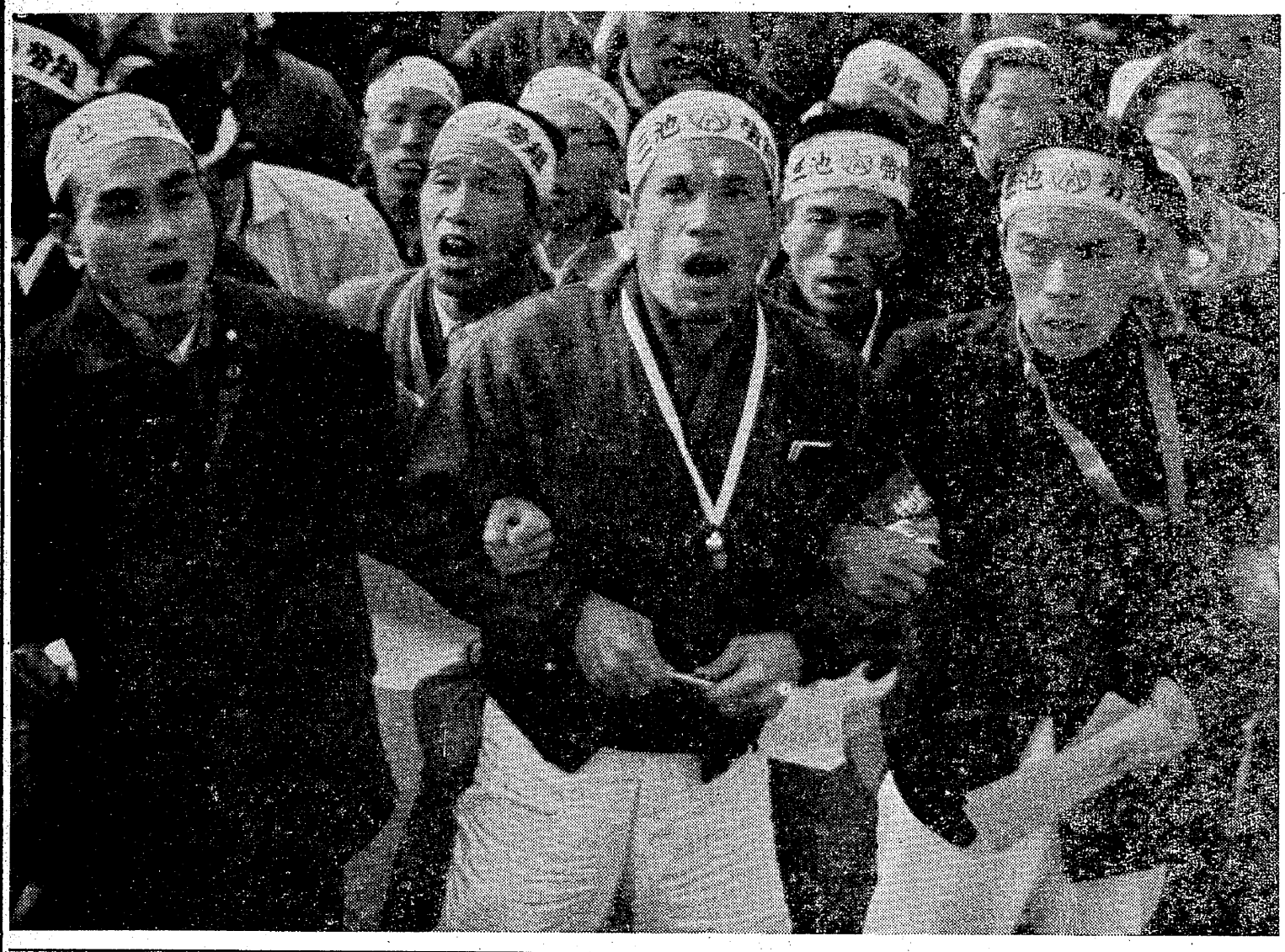
(一)　第605号　昭和27年9月25日 第三種郵便物認可　THE MIIKE　【毎週日曜日発行】　昭和35年(1960)1月1日（金）



みんな仲間だ　仂らくなかま

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話8033番 7140番
編集兼発行人　北岡　隆

本紙は附録つき10ページです

力強い前進の一九六〇年
団結おめでとう

たくましい力をこめてねばり強い団結モチをつき、総評の同志からおくられたあたたかい資金カンパを感動の胸にうけとめ、海をこえた外国の仲間からもはげましをうけ力強い前進の年、一九六〇年をむかえた。労仂者の連帯と団結の力でむすばれた固いスクラムで〝クビ切り合理化と〟安保改定〟粉砕の確信にみちた前進をつづけよう。

闘いの中で新年をむかえた。

一九六〇年は、クビ切り合理化と安保改定をうちくだき、たくましい前進をとげる年だ。

新年をむかえて、われわれは前進の決意と、勝利の確信をあらたにした。それはわれわれの闘いが明るくゆたかな労働者階級の未来をきづく歴史的な闘いだし、だから越年闘争資金にふくまれていた総評の同志からおくられた平均五千円のカンパ金や、各地域分会ごとに力をこめてついた団結餅が象徴しているように、三池の闘いがみんなの闘いとして全国にひろがり、まさに階級的なるどい闘いとして著実に発展しているからである。

われわれは、この決意と確信をもとにして、決戦に突入する新年にあたって、三池磐石の構えを再強化せねばならない。

そのためにだされた三池労組指示八号、年末年始に対する指示は次の通りである。

年末年始に対する指示

いまや「クビ切り合理化」「安保改定」に反対する全労働者のたたかいは、いよいよ盛り上がりをみせ、闘争態勢は強化されつつあるわれわれは、決戦に突入する新年を迎えるにあたり、三池磐石の構えを再強化するため左記の通り指示する。

記

一、警戒態勢について

(1) 各地域分会は、闘争本部常駐その他、現在の態勢をそのまま堅持し、警戒態勢を持続せよ。

(2) 団結強化と家庭休養を第一とし、スキ間をつくる原因となる一切の虚礼を廃止し、できる限り質素な迎春とせよ。

二、保安・防災について

(1) 山野、新入など重大災害発生にかんがみ、保安点検を十分に行い、災害防止については全員の注意を喚起せよ。

(2) 向寒に際し、保健衛生ならびに防火対策については特に厳重な注意を払い、事故発生を阻止せよ。

三、その他

具体的細部事項については支部闘争委員長の指示に従え。

以上

われわれは、この指示にしたがって闘争態勢の再強化をはかり会社の保安サボにたいする職場での点検活動・抗議行動をおこし、あわせて、地域分会ごとにおこなわれる〝団結モチ消化大会〟で全国の同志のあたたかく力強い連帯の力を、ひとりひとりの胸にうけとめたくましい前進の年一九六〇年の力強い第一歩をふみだそう。

新春点景

岩本宗二郎

頑に霜をむすべる庭石のいつまでかゝる寂けさ保つ

さまざまのゴム靴を並べ乾かせるひかり正月の構図をなせり

元日はさすがに子らの憚りて干す沓下の色見ゆる庭

惜しみなく朝の陽照れり蹋まりて砂鉄を誘く子らの背中に

灯ともして声なき窓を仰ぐときあなみづみづし春のコーラス

働らく仲間の連帯は強まった

前進

年末に、私たちは平均八千円の越年闘争資金を手にすることができました。この内の五千円、合計七千五百万円は全国の仂らく仲間たちが、総評臨時大会の決定にしたがつて一人百円のカンパを集めた中からのものです。

その上、どこも多忙な年末だというのに総評岩井事務局長はじめ中央大単産委員長クラスの十余名と九州各単産代表者二十余名の多数が、二十四、五の二日間夜ひるなく三池の私たちを激励しオルグしてくれました。

みんな乏しい仂らく仲間たちが「苦しい家計」からカンパし、三池のたたかいを「我が闘争」として各単産委員長は心配してくれたのです。

兵糧攻めという資本の卑劣さに対決する私たちにとつて、これは何という暖かく力強い連帯だろうか。

みなさん、ありがとう。

もう三池は断じて孤立していない。

すべてを結集して反撃へ

いまさらだが、去年一年に資本がさらけ出した「ごう慾」と「ペテン」ほどみにくいものはなかつた。かれらは阻害者」であることや、組合ぶつつぶしが資本主義体制延命のための「安保改定」に直結していることもみんながちやんと見抜いているからです。

されば こそ、私たちは不当な「クビ切り」にたぎる怒りを抑え、悪どい挑発にも敢えて慎重に構えて来たのです。

だが仂らく仲間たちの意思は統一され鋭どくたくましい「抵抗」は全国に拡がつている

新年を迎えた今こそ、組織労仂者の団結と連帯をみんなで確認し合いすべての力を結集し、今年こそ組織の運命をかけて「反撃」に総決起しよう。

仂らく者の正しさを証明し、春闘態勢を強化するために。

今年こそ組織の運命をかけて

仂らく者が権利と自由を拡大することが「歴史の必然」であることに怖れおののき「組合活動家」を「生産阻害者」という名にスリ替え、しやにむに組合ぶつつぶしに全力をかけた。

しかし、みんなはだまされない。

なぜなら、無計画な生産を土台とする資本主義体制こそが札つきの「生産

あいつぐ大変災

全山一齊に抗議スト決行

十二月二十一日早朝、友山山野炭鉱では、竪坑上主要幹線第一番坑道で、突然ガス爆発が起り七名死亡二五〇名の重軽傷者を出す大変災がおきた。翌二十一日夜半には三菱新入鉱で、山野を上廻るガス爆発がおこり、四名死亡十八名は遮断されたままという相つぐ大変災が起きている。いずれもこの原因は、首切りに狂奔して保安をサボつていた会社の人命を軽んずることから出ている。

山野のガス爆発は常時ガス検定を行つていれば、変災も未然に防がれていたといわれ、それを怠つていた会社の責任は徹底的に追及されねばならない。

一方、三池でも二十七日朝、四山鉱東三卸で堺邦宏さんが死亡し、一名が重傷するという大変災が起つた。このあいつぐ変災に対して会社の保安サボを強く追及するため、組合ではつぎのように抗議ストを決行した。

(1)三鉱連六山は、二十九日各番方一時間五十分の時限ストライキ

(2)九州炭労傘下各山は、二十九日各番方一齊時間外拒否

(3)三池労組は二十九日は企反闘争の二十四時間ストになつているので、保安サボに対する抗議の主旨徹底を行う。

一方、三池では三川鉱二十四尋スライシング払いでは自然発火を起し、一カ月半ぐらいは採炭不能となり、宮浦鉱では三十五尋が水没している。

こういう会社の態度を、われわれは徹底的に追及するため至急大衆討議をはじめよう。